

自治体名	福岡県 中間市
------	---------

### 女性の健康づくり対策の概要

- 1) 子宮がん検診、乳がん検診: 検診は電話等による事前予約のほか、若干名当日申込受診も可としました。検診料等は通常どおり。
- 2) 講演会: タイトル「もっと知って、乳がんのこと」講師: NPO法人ハッピーマンマ理事 徳永えり子さん
- 3) パネル及び模型展示・パンフレット配布: 乳がん、子宮がん、子宮頸がん予防ワクチン、たばこ、性感染症、更年期障害、歯科、女性特有の病気、女性がかかりやすい生活習慣病などに関する展示、資料提供をして認知促進及び啓発を行いました。
- 4) 検診車見学会
- 5) その他: 乳がん自己検診法指導、患者会紹介、女性の健康づくりに関する書籍紹介、卵を使わないカップケーキ(中間市給食調理員が協力)・郷土料理の販売(食生活改善推進会)、保育コーナーでのぬりえ・食育カルタ・読み聞かせ(子育て支援ボランティアのキューピー)、携帯ストラップの配布。

### 自治体の特徴

昭和33年11月、福岡県で20番目の市として中間市は誕生しました。県の北部、北九州市と隣接する地域に位置し、地域のほぼ中央には、まちを東西に二分するかたちで南から北へ遠賀川が流れ、東にはなだらかな丘陵を背景に閑静な住宅街が、西の広々とした平野部には美しくのどかな田園風景が広がるとともに、産業振興策として工業団地なども立地しています。また、野鳥の宝庫としても知られる中島をはじめ、垣生公園や蓮花寺ポタ山など、今も多く残る自然も市の姿に彩りを与えています。

### 人口構成 (H22. 2. 28 現在)

	総数	男	女
人	45704	21263	24441
割合(%)	100	46.5	53.5

15歳未満	5,222	2,657	2,565
15～64歳	27,135	13,136	13,999
65歳以上	13,347	5,470	7,877
75歳以上	6,547	2,350	4,197
85歳以上	1,716	453	1,263

### 女性に関する健康課題

女性特有のがん検診の受診率が低い

### 事業費 (千円)

- (1) 女性の健康づくりに関する事業 (総額)
- (2) 報告事業 (再掲)

185千円

事業名	「女性の健康づくり応援フェア」～あなたは私の大切な存在 見過ごさないで女性がん～
分野	■健康教育 ■健康手帳の交付 □健康相談 ■知識の普及 ■啓発普及
事業費（千円）	185

### 事業目的

当市の健診受診率はまだ低く、ある調査によると「多忙」「羞恥」「恐怖」「過信」「高齢」が受診しない理由だそうです。昨年12月子宮頸がん予防のワクチンの販売が開始されましたが、ワクチンを接種していてもがん検診は必要です。そこで若い世代の女性が女性特有のがんから身を守り、生涯を通じて健康で明るく充実した日々を自立して過ごすことをめざして、女性の健康づくり応援フェアを行いました。

### 事業対象

20～40歳代の女性(市民)のほか、女性がんを中心とした女性の健康づくりに関係のある団体やNPO、民間企業、市民団体

### 事業実施体制・展開

- 1) 子宮がん検診、乳がん検診は、女性医師、女性技師の執務。女性スタッフによる女性のための検診ということをも本イベントのメインにしました。周知については広報なかま1月25日号、2月10日号、3月10日号およびフリーペーパー、ホームページ、チラシ・ポスターで広報。チラシは女性が通うであろう美容室や花屋など市内の店舗に設置。検診は電話等による事前予約のほか、若干名当日申込受診も可としました。検診料等は通常どおり。
- 2) 講演会：来所者が検診受診の必要性を感じ、自ら受診行動に結びつくものとなれば良いと思い企画。講師はNPO法人ハッピーマンマ理事 九州大学乳腺外科専門医徳永えり子さん
- 3) パネル及び模型展示・パンフレット配布：一部は購入したものの、NPO や企業、保健福祉環境事務に資料をしていただきました。
- 4) 検診車見学会：どんな部屋(車中)でどんな検診が行われるのか、事前に知っていれば不安の軽減にもつながり、受診者が増えるのではないかと思い企画。
- 5) その他：集客のための工夫として市民やNPO、民間企業、学校との協働、オリジナルリボンの啓発グッズ(携帯ストラップ)の配布のデザインは中間市在住の市民でイラストレーターに提供してもらいました。

### 事業目標・評価項目 及び その結果

**事業目標** ①女性がん検診受診率の向上、②女性の健康づくりに関する動機づけ、③女性特有のがん検診に関する知識の普及、④女性特有のがん予防に関する啓発、⑤市民との協働

**評価項目** ①子宮頸がん、乳がん検診受診者数と受診率の伸び、受診者の内訳（年齢、初回非初回の別）、②アンケートによる評価

#### 結果

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
子宮頸がん受診者数	13	62	33	33	23	12	
要精検者数		1					
乳がん受診者数		60	33	34	26	10	1
要精検者数〈初回受診〉			5〈4〉	1〈1〉	1	2	
受診率の伸び	子宮 1.43%アップ (15.7%→17.23%)	乳 1.53%アップ (13.8%→15.23%)					
初回・非初回	集計中						
アンケート結果	別紙 (がん検診受診予約者分) ※当日来場者分は現在集計中 (キャンセル待ちで入った人、当日枠で申し込んだ人含む)						

### 事業の工夫点

①女性医師・技師による検診体制 ②日曜日の開催 ③検診以外のイベントの開催 ⑤市民、NPO、民間企業、学校との協働 ⑥託児の実施 ⑦子宮頸がん予防ワクチン情報提供 ⑩住民参加型の企画 ⑫ピンクリボン・ティール&ホワイトリボンのオリジナルロゴマークを市民の手によって製作 ⑭アンケート調査 ⑮他課への働きかけ ⑯講演会と組み合わせ女性の健康週間を意識したイベントに。

### 事業の効果についての評価・考察

①子宮頸がん検診、乳がん検診ともに受診率の向上ができました。乳がんにおいては平成19年度の全国平均受診率を上回る結果を得、初回受診者が多い健診となりました。当日の受診者は通常の約5倍に相当。予想どおり女性医師に対する評価が高く出ました。

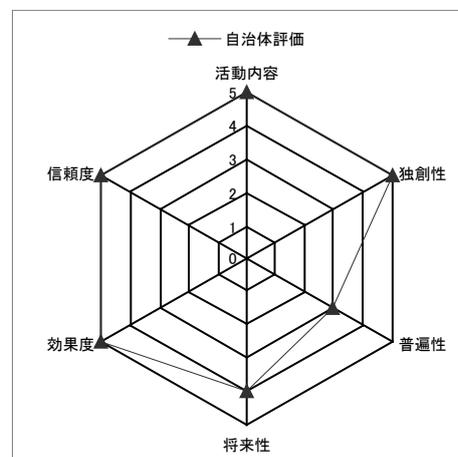
②アンケートによると、「仕事をしていると平日に病院に行くことがムズかしいので、日曜日にしていただけるのはとても魅力的です」との感想が聞かれ更に、「託児があり助かった。」「気軽に受診できた。」「電話による申込が手軽だった。」「今後もぜひ続けて欲しい。」との声も聞かれました。ミニ音楽会についても良い反応を得ることが出来、講演会についても「わかりやすく、自己検診の大切さを感じた。」という感想が寄せられ、講演後検診を受けた人もいました。「とても画期的で前向きな企画だと思います」「女性に限定したイベントや検診なので参加しやすい」「中間市に住んでよかったと思いました」とのことで今後は他のがん検診も視野に入れた女性のためのイベントや市民と共に創っていく企画が必要であると感じました。今回驚いたのは中間市民は広報をよく見ているという点でした。中学生など市民を巻き込んで実施することで家族が来場するなど思惑どおりの展開になりました。

### 今後の課題

①関係機関との連携強化 ②他の検診（肺・胃・骨）との組み合わせ ③市民との協働方法の検討 ④40歳未満者は視触診のみであるため精度についての検討 ⑤エコー検査の検討 ⑥イベントではなく通常で実施できればいい（それには女性医師の確保が最大の課題）

ホームページ	<a href="http://www.city.nakama.fukuoka.jp/">http://www.city.nakama.fukuoka.jp/</a>
照会先	福岡県中間市 保健福祉部 健康増進課 健康係 (中間市保健センター) 093-246-1611

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	5	
②独創性	5	
③普遍性	3	女性医師の確保が困難な状況ですので、そこが解決出来れば普遍性・将来性も期待出来ると思います。
④将来性	4	
⑤効果度	5	
⑥信頼度	5	



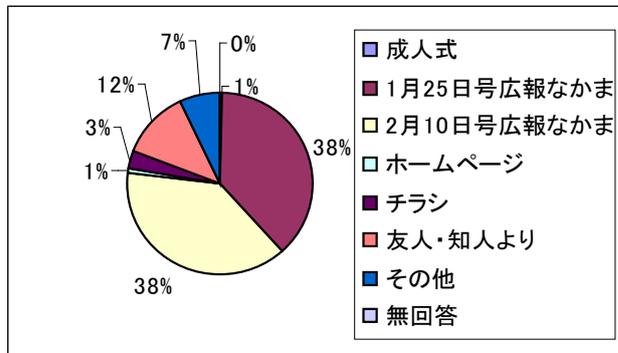
## 女性の健康づくり応援フェアで検診を受けられたあなたへ

検診受診票に同封した「私の眩き」に多数ご記入いただきありがとうございました。

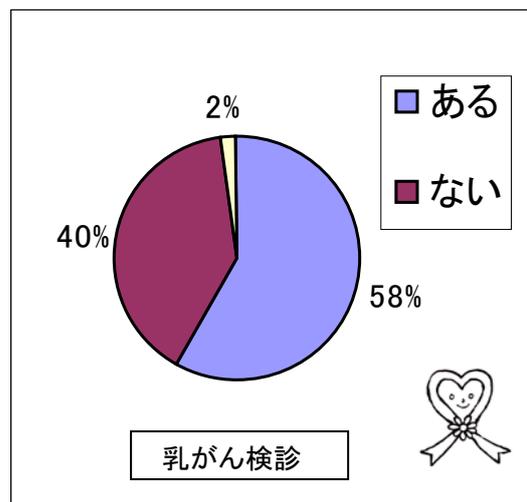
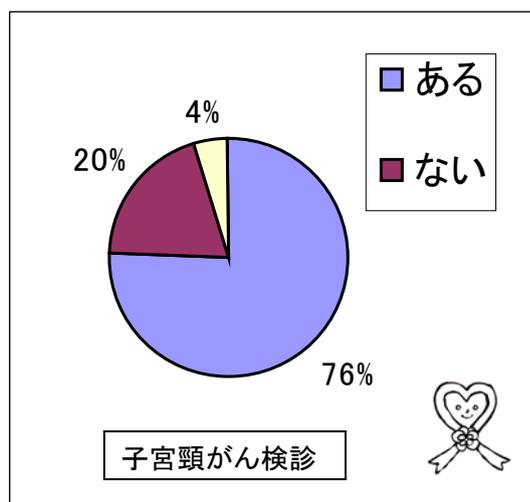
受診票に同封して回答が得られた 156 人の結果をまとめてみました。

この結果を次につなげていきたいと思えます。

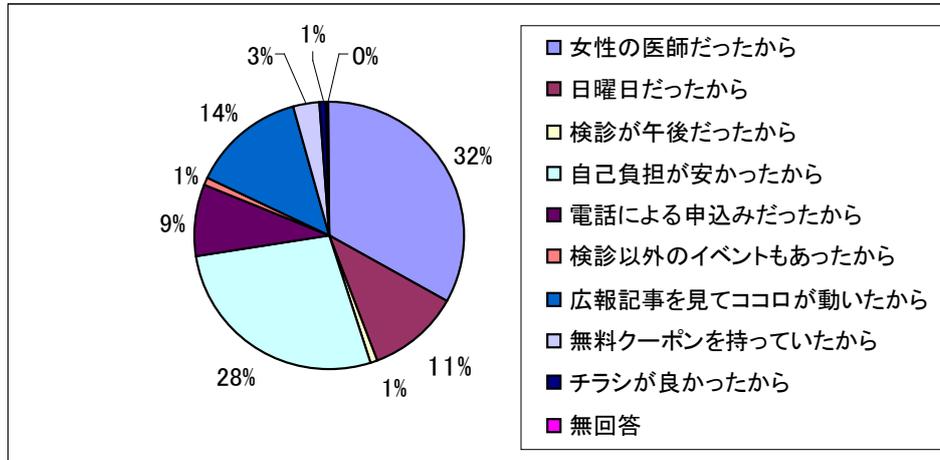
女性の健康づくり応援フェアを知ったのは 119 人(76%)が広報なかまを情報源としていることがわかりました。たくさんのかたが広報を手にとり、記事を読まれてココロを動かされたことを嬉しく思います。チラシは 1,000 枚以上配りましたが広報なかまに掲載することで十分だということがわかりました。これからも広報なかまを愛読してくださいね。



156人の回答者のうち、今までに子宮頸がん検診を受けたことがない人が2割(31人)、乳がん検診を受けたことがない人が4割(63人)でした。意外に乳がん検診を受けたことのない女性が多いのですね。今回初めて受診されたかた、いかがでしたか。今後も習慣にしていだけたらと思えます。

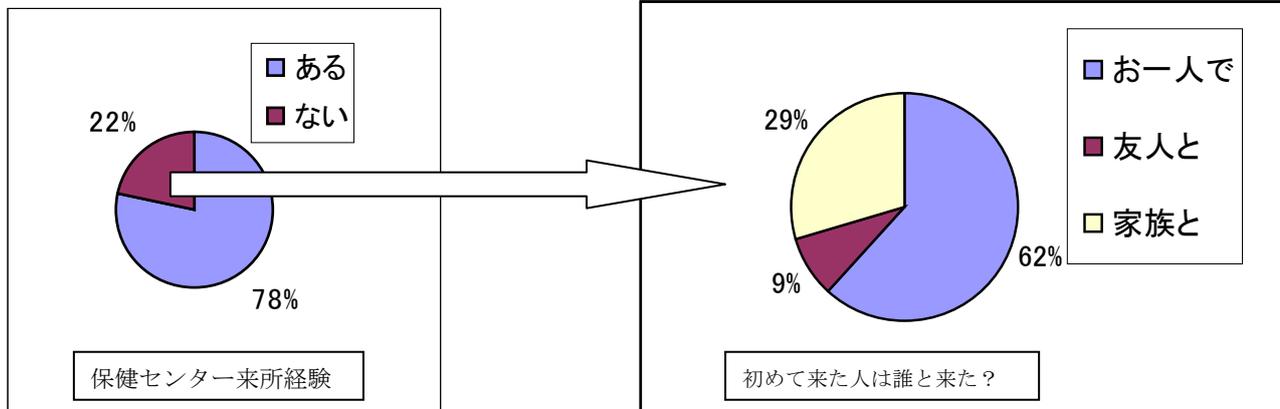


今回、市が実施する検診を受診しようと思った理由を3つまで選んでいただきましたが「女性の医師だったから」が最も多く 135 人(32%)。次に「自己負担が安かったから」が 112 人(28%)。続いて「広報記事を見てココロが動いたから」が 56 人(14%)でした。



別紙に「女性医師による検診を来年度も続けて欲しいと思う」と答えた 154 人のうち記入のあった 138 人の声を載せていますのでご覧ください。

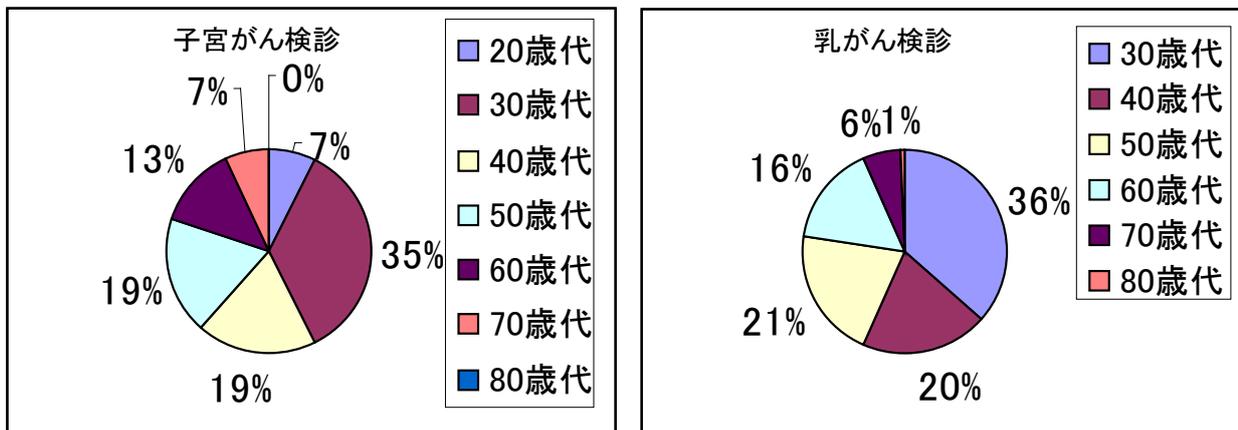
保健センターに来所したことがある人は 122 人(78%)、ない人は 34 人(22%)でした。ないと答えた 34 人のうち、一人で来た人は1/3にあたる 21 人(62%)でした。心細かったでしょう。  
 来てみた印象について回答があったのは4人で、「良いです」「暖かくて気持ちのいい場所だった」「利用する人が多い」のほか「殺風景。入りづらい」とのご意見もいただきました。  
 利用しやすい雰囲気づくりに務めていきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。



### 受診者の年齢構成

**子宮がん検診** 20歳代:13人 30歳代:62人 40歳代:33人 50歳代:33人  
 60歳代:23人 70歳代:12人 合計 176人

**乳がん検診** 30歳代 60人 40歳代 33人 50歳代 34人 60歳代 26人 70歳代 10人  
 80歳代 1人 合計 164人



携帯ストラップ愛用していただいていますか？おまもりのように、身につけていただいて、検診の大切さを忘れずに、周りの大切な人にも検診を勧めていただけたなら幸いです。

「今回のイベントをどう思いますか」という問いに回答のあった 109 人の眩きは別紙に掲載しています。たくさん眩いいただきありがとうございました。

～中間市保健センタースタッフ一同